

Slow-to-Fast 地震学国際合同研究集会 2023 に参加して

鳴門教育大学
福地里菜

大正 12 年（1923 年）9 月 1 日の関東大震災から 100 年の 2023 年 9 月，東京大学の伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホールにて開催されました。私は，普段の地質学の議論が多い中で，地震学・測地学分野の研究者との交流の貴重な機会を得ました。また国際ワークショップで来日した海外の知り合いの研究者と，コロナ後初めて対面で議論する時間が得られたことも今回の大きな収穫でした。

今年のワークショップではブレイクアウトセッションにて，国内外の研究者とアウトリーチを本格的に考える機会を得て，現在教育学部に所属しているために，初等教育から中等教育への参入や一般への知識の展開の必要性と現状の乖離を感じました。普段アウトリーチを行っている研究者はその乖離を議論にあげ，具体的な戦略の一つとして初等向けの本の出版やわかりやすいニュージーランドのスロー地震に関する動画の紹介など，そのような情報共有できました。

充実したワークショップの後，南洋工科大の小森さんの案内で千葉県房総半島南部の過去の関東地震に隆起した地形についての巡検に参加しました。海岸近傍の隆起した地層には，過去の海水面で生きたであろうヤッコカンザシが観察でき（写真 1・2），実際に隆起した海岸段丘面の高さや隆起地形を歩き，規模を実感することができました。参加者は地質分野よりも他分野の研究者の参加が多かった印象があり，質問や飛び交う議論も多岐に渡り，有意義な時間を過ごすことができました。今回のワークショップへの旅費をご支援いただき，誠にありがとうございました。



写真1：ヤッコカンザシの観察をする参加者



写真2：近接撮影したヤッコカンザシ